淡路花博25周年記念花みどりフェア第４回企画委員会　議事録

１　**日時**　令和６年５月21日（火）13:30～15:00

２　**場所**　兵庫県庁３号館６階第１委員会室

３　**委員総数及び出席委員数**

委員総数　　11名

出席委員数　10名

４　**出席委員の氏名**

中瀬勲、入谷芳郎、門野隆弘、高木俊光、田中まこ、田辺眞人、古田菜穂子、堀内照美、三井雄一郎、光成麻美

（参考：欠席委員　原口晴美）

５　**議事**

（１）第３回企画委員会における委員意見に対する対応について

（２）淡路花博25周年記念花みどりフェア　実施計画（案）について

６　**議事の概要**

議事について、事務局より資料１、資料２に基づいて説明を行い、審議を行った。委員の主な意見は以下のとおり。

【議事】（資料１）

（田中委員）

ボランティアの話が出たので質問だが、関空とかでもPR活動されるということだが、ボランティアの中には、多言語の通訳のボランティアの方は、もうすでに見込まれているのか？どんなタイプのボランティアの方がどの程度の人数参加されるのかというのは私も気になっていたところで、多言語という意味ではサインとか、バスとかのアナウンス、最近、新幹線とかでも全部英語が加えられて、すごくわかりやすくなっているが、今回の公共交通機関に関しても、そういった多言語の対応っていうのはどこかに書いてあるのか？一生懸命探したが、そのあたりやボランティアの部分が見つからなかったので、お願いできますか。

（小山部長）

ボランティアについては説明から省いたが、68ページのところにボランティア活動、基本的な考え方、あるいはボランティア活動推進についてというところでどういった方をガイドに使うかと、これに加えてさらに募集をしてやっていきたいというふうに考えている。また、

サインについても73 ページ以降に記載しているが、外国語対応もできるだけ行うが、細かいとこまでは難しいので、スマホのグーグル翻訳等をご案内することによって、使えないかと考えている。バスは、四社会合ということで淡路島内をカバーしているバス会社が連携して毎月のように会議をしている。先日我々も行ってきたが、そのなかで我々の方からもご要望をさせていただきたいと思っている。

（中瀬委員長）

よろしくお願いします。この頃、指定管理者が変わって県立の施設も変わった。この間公園に行ったら「これ県立？」と思うぐらいソフトな対応をするようになってきている。あとこれも余談だが、この間、上高地行ったら、あのかっぱ橋がほぼインバウンドの人で満員。よく見つけてここまで来ているなと。だから、この時期になってこのままコロナがずっと収まっていたら、ひょっとしたらすごいインバウンドの人が来る可能性もある。

（門野委員）

先日、京都で鰻屋に行った。その店は2ヶ月ぐらい前にできたばかりのところで、そういうところにシンガポールから女性の観光客が予約をして、その店に来ている。それほど今、観光客、日本に来る人っていうのは、非常に細かい情報を集めて、日本を楽しむ、そういう傾向が非常に強まっていると思う。言いたいのは、淡路島というのは、私たちに近隣に住むものにとっても、やっぱり食の宝庫であるという、その魅力は非常に大きいと思う。今回のテーマの中にも農と食っていうのがあって、この催しそのものの魅力はもちろんだが、見終わってからのアフターファイブの楽しみ方。その中でやっぱり淡路の食の魅力をいかにPRするか、これ非常に重要だと思う。それについては素材的なものはもちろん、行政を通じてPRはできると思うが、そうではなくて、ここに行けばこんな美味しい料理が食べられる、こんなスイーツがあるという、そういう詳細な情報が必要だと思う。それについては民間地元のその飲食関係の方がちゃんと情報発信する必要があると思うので、うまくホームページとリンクをさせたり、いろんな形で発信はできると思うので、ぜひそういう情報提供をしっかりとやっていただければと思う。

（小山部長）

34 ページで見て頂きましたサテライト会場も、主だったそういった食の魅力も発信しているようなところもたくさん書いている。それからホームページの方では観光協会の方と相互リンクの方もかけさせていただくということを今考えていて、そちらの中でももっと詳しく、「どんな風に作っているか？」といったところについても、掘り下げたネタを観光協会さんが作られている。あるいはフィールドパピリオンということで、兵庫県でやっているものもあるので、今38ページ以降でサテライト会場は名前と住所、電話番号しか書いていないが、ホームページに発信するときにはリンク先でそれぞれの施設のリンク先であるとか、主だったこんなことをやっていますよというふうな施設の紹介といったものを含めて紹介をさせていただきたいと思い、入り口はうちの方でも分かるように、そして詳しい内容はそれぞれの方で発信していただくようにということを考えている。

（門野委員）
　その時に先ほどもおっしゃっていた多言語の発信が必要と思う。その辺は行政の方でもサポートされて、海外の人に直接情報が届くような工夫はぜひお願いできればと思う。
（小山部長）
　ベースのところは全部英訳まで考えていて、詳細なところはもしかしたらホームページ上の自動翻訳といったところに頼るかもしれないが、多言語につきましては、我々として意識しながら、考えさせていただきたい。
（中瀬委員長）
　光成さんが連れて行ってくれる蕎麦屋さんは 30人食べたらもういっぱい。ああいうところはどうするのでしょうね。2人か3人でやっていて、すごく凝っていて、学生がおかわりしようと思っても売り切れたらもうおしまい。ああいうところをどんな風にしていくか。超穴場中の穴場で、そういう超穴場情報なんかも面白い。また1回いろいろと相談しておいてください。
（光成委員）
　ホームページの話で追加というか、気になったところだが、今の時点でもかなりたくさん行事があって、この後、また県民事業の募集でさらに増えていくと思うが、多分すごく魅力的なイベントをしていても、どこで何をしているかっていうのは、ホームページ上では分かりにくくなるのではないのかなというのがちょっと気になっていて、できるかどうかは別として、いわゆるホテルの検索とかみたいに何日にどこで、どんなイベントをやっているというのが、ポチポチとしていくと出てくるとか、そういったものがあると、この日行こうと思っていて、ここの近くならこれができます、それが分かるようになっているとすごく分かりやすいのかなと思う。あとはサテライト会場も含めて、いろんな場所に散らばっていたりとか、島スイーツもいろんな店舗さんが一堂に会してイベントをするにしても、実店舗は別にあったりすると思うので、そういうものをグーグルマップとかでマイマップみたいな形で一覧に出るようにしておくと、例えばレンタカーに来た人とかもスマホがあればそれで一部情報が分かるので、そういった仕組みとかがあると、場所だけでも分かりやすいのかなという気はした。
（小山部長）
　実は今、ホームページ我々の方で考えていたのは、近場のイベントについては「イベント情報」ということで、ホームページの1番上に出てくるようなことを考えていたが、検索まで考えていなかったので、そういったあの検索窓みたいなことを考えてみたいと思う。島スイーツで来られる方と、このサテライト会場は必ずしもリンクしていないところもあるので、参加いただけるお店の場所等を紹介できるようなページ、そういったことも考えてみたいと思う。
（中瀬委員長）
　今の話に関連するが、この頃は自分の旅行をテーマとか場所とか趣味を入れるとAIで生成

できるようなプログラムがもう出てきているらしい。今回しろとは言わないが、もし可能ならAIを活用して、これだけデータベースがあるのなら、自分の好みのプログラムなんかができるようなことも。もうほぼほぼ大手旅行社は取り入れかけているらしい。僕は絶対しませんが。

（小山部長）

私にテクニックがないが、ホームページは当然そういった業者に委託をしているので、そういったことができないか。つまり趣味を入れれば、その2日間の日程を作ってくれるということですよね。

（中瀬委員長）

自家用車とか、車とかね。いろんな条件を設定したら、それでルートが設定できる。

（小山部長）

そういうことができるかどうかも含めて、ホームページ業者の方と調整してみたいと思う。

（高木委員）

17 ページ以降、行事の計画を多々掲載いただいていて、素晴らしくまとまっているというふうには思うが、一方でこれだけあると結局「何が目玉なの？」というのが、ちょっとぼやけてしまう。地元の方にとってはあまり関係なくって、神戸の人にもあんまり関係ないのですが、遠大から首都圏とかインバウンドのお客さん呼び込みって言った時には何のことかわからないということになってしまうというところがある。拝見するとすごいラインナップだが、実は結構一度やっていることをそのまま、もしくは少しアレンジして項目に入れているっていうケースもあって、どうしてもこういうイベントやるとそうなってしまうが、それはそれでいいとして、首都圏とかにプロモーションする時は、明確に目玉をきちんと打ち出した上でアピールをしないと、結局首都圏の近隣にある同じようなものと何が違うの？ということになりがちだと思う。そういうことで言うと、とはいえ、やはり明石海峡公園の春のカーニバルの花畑、それから個人的にはこれがと思うのはイングランドの丘の、新たな、今、羊がいるところを花畑にするというのが結構大きいかなというような気もするので、そういうあたりをしっかりとメインをとらえていって、当然、距離によってプロモーションの内容が変わるので、均質のものをどのマーケットにも同じように配信をしてしまうと、遠隔地はどんどんボケていくので、そのあたりは注意をいただきたいというのが1点。

あともう1点、各委員における対応のところにも、私の意見書いていただいていた。体験ものの予約にこう繋げて必要云々とかっていうところだったと思うが、私どもとしたら「淡路島博」が、3月20日にスタートして、ちょっと失礼に言うと、オープニング大ベントみたいな感じの扱いになる。今観光協会の方で、ならではの本格、本物体験みたいなものはいくつも作っているが、ぜひともそれとうまくリンクをしていければなと思う。多分50万人以上の方が1ヶ月の間に来られるっていうのは、気づきの場としたら最高かなというふうに思っていて、その旅行の中で体験いただくには準備不足という形になるので、是非ともメイン会場を中心に、その会場に来た人にこう気づきを与えて「あ、こんなことできるんだ」みたいな感じで、

「漁港で競り見られるんだ」とか、「漁船に乗って一緒に漁業体験できるんだ」とか「鳴門オレンジの収穫体験できるんだ」とか「鬼瓦づくり体験できるんだ」とか、いろいろそういうプログラムも組んでいる。特に京阪神の方は、それから 10月11月までの間に、あと何度も来られる方も多いと思うのでそういうところで繋げていって、「淡路島ってこういういろんな本物体験ができるようになったんだね」っていうようなところにうまく繋げていけるような連携が図れれば。ホームページ上の問題で、先ほどおっしゃっていたように、グルメで言うと、淡路島グルメガイドっていうのを我々は作っているので、そういうものとのリンクもやっていきたい。ホームページ上のことと、それから現場。特に期待するのは、1ヶ月に50万人以上来られる現場で気づきを与えられて、その次の旅行の形態が変わっていくというような形に持っていければなというふうに思った。

（小山部長）

目玉事業の話が最初にあった。16 ページに少し書いているが、事業の建付けの、観光イベントとしてどういう風に具体的に取り組むかというところの1つ目の丸の三角のところ、集客の目玉となる行催事を行うという格好で記載している。これは例えばチームラボであったりとか、花みどりフェアということで大規模花壇であったりとか。国際的には、いわゆる世界的には自生種、あるいは在来種による修景みたいなことがあると思っているので、こういったものが目玉事業という格好になってくる。今回、実施計画というのは、どのような事業を建付けて考えていくか。これは環境未来島構想の建付けで行っていくという格好で、そういう整理の中での表現になっている。別途、観光協会高木委員の方からご意見のあったように、普段行われているのは、多分そのターゲットを絞ってどういったものが刺さるのかを選んで実施していくという方法だと思うが、そういう広報についてはこれだけではなく、ご意見があったように目玉をどれにするか、どこに対してどれをするかっていうのをしっかり選んで、どれを目立たせるのかということをしっかり選んだ上で広報していきたいというふうに考えているので、意識してご指摘にあったように行っていきたいと考えている。それから体験ものについてもおっしゃる通りで、この「花みどりフェア」に来られたら結構長い時間ここにおられると思うので、他のところに、その日のうちに、あるいは2日間で全部回ることは多分無理なので、次に気づいていただけるような顔見せ興行をこちらの方でやっていくというふうな考え方でいる。観光協会とも、気心知れたメンバーでさせていただいているので、うまく今後も連携をとってやっていきたい。

（入谷委員）

イベントが本当に盛りだくさんで高木さんに追随するような目玉の話だが、やはり花みどりということになると、やはり花や緑というのは目玉の1丁目1番地かなと思うが、今見ているとほとんどが既存の施設の流用で、来られた方、リピーターの方は目玉というと、新規で新たなものが、やっぱり目玉になっていくと思う。そんな中、南あわじ会場でイングリッシュガーデンの方に「花みどりフェア」の目玉として新しく整備した「イングリッシュガーデン」が記載されているが、花博の継承から最後がこの「イングリッシュガーデン」がふさわ

しいのかどうかっていうことをすごく感じた。詳しい内容がもしもう決まっているのであれば、領域規模でどうなのかというのを教えていただきたい。あとチラシをすごくイメージしていて、自分の団体も全国に900社ほどあるが、そういった集いの中で、大阪万博のことは当然認知されるが、そこに添えた流れで聞いて欲しいと思う。花や緑の団体なので、そういったところをイメージできるようなもの、作戦をお願いしたいと思うので、そこに、今、先生がずっとおっしゃっている生物多様性とかそういうのは発信力があるのかなと思う。大規模花壇が必須だが、そういったところで「イングリッシュガーデン」がふさわしいのか。

（小山部長）

まずこの南あわじ市の方だが、今、羊の放牧場ということでサブになっているところが4,000平米ぐらいあって、そのうちの2,000平米の部分を花壇に新たに造成する。要はインスタ映えというか、「一面の花壇」というふうに撮ってもらえると思う。「イングランドの丘」なので「イングリッシュガーデン」という仮称になっているが、名前はいろいろ考える。時期的には多分チューリップから入るのではないかと思う。

（入谷委員）

「イングリッシュガーデン」というのは花畑なのか。

（小山部長）

花畑です。ごめんなさい。イングリッシュガーデンは下の方。表現ぶりが版権の関係で書けていないが、有名キャラクターとのコラボ。まだ本国の方の了解が取れてないので書けていないが、そういったものを作る。それは集客の目玉として、皆さん誰もがご存知のキャラクターなので、そういったものを作らせていただくということ。すみません、私、今ちょっと途中説明し始めたら、 2番の羊の方でしたね。失礼しました。

メインは、この下の羊の放牧場の方の2,000平米のところに大規模花壇を新たに造成するというところが、南あわじ市のレガシーとしても残るし、メインの花畑ということになる。

ちなみに明石海峡公園の方も、今回、あの花壇の島がぽっぽっぽっと入っているところを全面の花壇にしていただいて、5,000平米で空前の大きさだと思う。そういった花壇を作っていただくというのが今回の目玉になる。

（入谷委員）

どっちでもいわゆる転用ということには変わりないと思うが、新たに何かっていうところがやっぱり欲しいと思う。

（小山部長）

県民提案事業の方で推進していきたいというふうに思っているのは、道横のところに、いくつか花壇があって、それも放置されているところも結構ある。今回そういったところに綺麗に花を植えていただきたいというのは私も推奨していきたいと思っている。それは地域の方にやっていただきたいと考えている。

（高木委員）

少し入谷委員のサポート的に発言させていただくと、結局「何故『イングリッシュガーデ

ン』なの？うち淡路島なのに」というところはあって、淡路島をイングリッシュガーデンだらけの島にするという共通目標があるわけではない中で、そこのクエスチョンみたいなのがある。「地域ならでは」みたいなところで言うと、ちょっと気になるなみたいな。だったら同じ南あわじだったら例えば、別に何を対立するわけではないが、例えば諭鶴羽山のアカガシの群落見に行きましょうよ、独特のものですから、そういうことじゃあないのかなっていう。見た目にインパクトがあるガーデンというのは、「絶対見たい」っていう気持ちに繋がるのでそれは外せないが、ただ着地点の「イングリッシュガーデン」が目玉というのは、正直、私も表現含めて気になる。

（田中委員）

「イングリッシュガーデン」ではないのですよね。イングランドなのですよね。

（小山委員）

「イングリッシュガーデン」という、地図がその上に出ているが、Hの場所が既に「イングリッシュガーデン」という場所。ここ全体がイングランドの丘というところなので。今、田中委員の方でご指摘があったように、最終的に「イングリッシュガーデン」というものが目玉ではなくて、有名なキャラクターとコラボすることが目玉。表現ぶりが悪いのか、版権の関係で書けなかったところもあって誤解を生んでいるかなというふうに思う。

（田辺委員）

どういう人たちを対象にして発信をするかいうことを考えると、神戸に来る人を異人館に連れて行く人がよくいる。欧米の人にしたら、こういうグリーンに関心の深い人は、日本の場合は鎮守の森というのがものすごく大きい役割を果たしてきた。そうするとあの淡路島には阪神間なんかよりもっと豊かにそういうのが残っているはずだから、そういうリストを挙げるとか、やっぱり対象によって情報を絞る必要がある。それともう1つ、全体のことだが、我々はもう何ヶ月もこれに関わってきて、これだけの会場でこういうものがある、それでもまだ私はっきり把握できてない状況。あの世界中の観光活動がピタッと止まって、このときみんなが淡路に注目するならこれでいいが、世界中の人や阪神間や首都圏から来る人に、情報というのを我々は往々にして増やそうという努力をするが、そぎ落として、情報は制限がないと使えないと思う。そういうルートというか、少し工夫する必要があるのではないか。

（中瀬委員）

この前の時も言っていたが、ホテルのロビーにおられるコンシェルジェ的な人に聞いてもらって、それやったらここが良いとか、そういうボランティアの人々が出てきてくれたら結構面白いなと。この前、加藤先生ところで、岩屋で寒天づくりをしている地域のおばさんに出会ったら、まあ雄弁なこと。だから、そういう雄弁な方が地域にいっぱいおられるので、そういう人々にうまく花のこととか植物のこととかしゃべってもらえるようなそんな仕組みを考えられたら面白いでしょうね。

（小山部長）

今、田辺委員からのお話も含めて2つありまして、まずこの資料の建て付けはメイン会場で

どうするか、サテライト会場でどうするか、といったものの事業、あるいは内容をずっと詰め込んでいる。一方で広報としてどうするかということにつきましては、また別途、今言いましたようにターゲットを絞って、それぞれもう少し内容を削いで、「こういうとこありますよ」っていうことをしていきたいと考えている。それから「イングリッシュガーデン」の話とその他の会場、南あわじで言うと、1番の目玉はやっぱり渦潮だと我々は思っている。こういったところはサテライト会場の中に入っていて、そういったもので対応していくといったことかなと思っている。これは観光のための資料を作る際には、そういったものは当然入ってきますし、ツアー的なことは僕らの方でモデルツアーみたいなものを書けるのであればそういったものも含めて対応していきたい。僕も地域情報については、田辺先生にまたご相談をさせていただきながら進めていきたいと思う。

（中瀬委員長）

リモートの御三人いかがでしょうか。

（古田委員）

いろいろと詳しいお話を聞かせていただいた。皆さんの意見も本当になるほどと聞きながら、2点だけ申し上げる。まず根本的な部分で、最初の今回のこの企画委員会の中で話し合うべきことということが基本的な部分の方針に対しての議論だという理解をした上で、最初におっしゃったこの事業の目的が「花と緑のある豊かなSDGs的な暮らしのあり方」の提案をしたいと、その提案などの体験の中から、淡路島に持続可能な観光資源として仕立て上げていくことも目的としている。それが島民の人や県民や各地の方々にもちゃんと伝えていって、それがリピーターも生んでいくっていうようなものだと理解をしている。それをたくさんたくさん教えていただいた後、先ほど来も議論になっていた、私も何がメインなのかなと思って、ずっとお話を聞いていたら、質問もしていただけたのでありがたかったのですが、いずれにしても先ほどのそういった最初に申し上げた「暮らしのあり方の提案」というこの自然と共にある暮らしのっていうことだが、それが本当に伝わるのかっていうように、この全体の事業を通してということだが、いろんな楽しそうなイベントもあるし、イベントなのでフェアなのでいくつかの楽しいイベントがあって、それは単発イベントとして主にあるのですけれども、暮らしのあり方の提案になっていくという意味では、例えば食ですと単発のイベントで終わるのではなくて、いつでも発信して体験できるものを仕込んでおかないと多分ダメだろうなとか、自生種による発信、世界へのこの、最初の先ほどもメインですか？とお尋ねになった時に、「修景等世界の潮流の発信」の部分で、国際シンポジウムなどをメインですっておっしゃっていましたが、特殊なのでそのテーマがずっと最後までどんなように引き継がれていくのかという部分がもう少しフューチャーされていかないと、提案になっていかないのではないかなというように思っておりまして、例えば自然展とか、あと自生種の展示は展示だけで終わっているというと、ほとんど見る方少なくなってしまうのではないかなと。もっともっとそれがインタラクティブに相互間に発信していって、それがこう続けていって議論になっていくような、それが楽しいことにもなっていくようなものにしていかないと、

今回のこのテーマを消化していくイベントになりづらいのではないかなというのが思いまして、その部分が環境とかSDGsの実践的な部分の体験イベントがまさにそうあるべきだと思っているが、ちょっと足りないのではないかと。例えばだが、交通手段の話で公共交通機関を使うインセンティブだが、もちろん安いとお得というのもあるが、もっとそうじゃなくて公共交通機関を使うことであなた方1人1人が環境負荷に対してこんな風に貢献できるということを楽しく発信できるようなイベント化をしていくということで、まさにそれが暮らしのあり方の提案にもつながっていくとか、そういう部分が今は見えていないと思う。安くして行くパスを作るのも大事だが、本質的なメッセージの部分をもっと具現化していく必要があるのではないかと思う。

最後に広報の部分だが、インバウンドは一応専門家として申し上げると、メイン会場に関しては、広報というよりは実のプロモーションで何ができるか、具体的な、伝えて来ていただけるためのプロモーション事業ですね。どんな風に具体化できるか、これは多分お答えになるとしたら次にご提案しますということかもしれないが、皆さんがここに書いてある広報計画というのは、基本的には広報のことしか書いていない。伝えるということで広く伝えるという戦略が書いてあるが、こういう事業をやるのに大事なのは広報とプロモーション。で、プロモーションの事業計画がイベントの中でプロモーションしますとしか書いてない。それは違う。イベントっていうものを伝えるプロモーションがあるが、プロモーション事業PRのプロモーション、パブリシティも含めたプロモーションっていうのは、広報プロモーションとセットになっている形できちっと考えていかないと。特にインバウンドに関しては不十分になっていくということを、今回の時点での中ではきちっと考え直すというか、この表にいくつか書いてあって、紙媒体でとか空港で、例えばインバウンドで言うと関空でやると書いてあんですけども、関空でやるプロモーションっていうのは、広報的な意味は伝えるだけの意味はあるかもしれないけど、プロモーションにはほとんどなりづらいと私は思っている。うちに実際のそれが誘客につながるかというと、実際に来た人がそこで見るというプロモーションというのは次行きたいなっていうのはあるかもしれませんが、戦略的には少しずれているような気も。やるなという意味ではない。あと、紙媒体のチラシをばらまくというのも、もう今の時代、特に海外においてはほとんど意味がないし、環境配慮したイベントなのに、それでいいのかなと思う部分がかなりある。そこの工夫をいかにできるかという部分をもう少し考えていただけると、本当の意味で今後につながっていく暮らしのあり方の提案にもなる事業になるのではないかなと思った。

（中瀬委員長）

はい。ありがとうございました。

（三井委員）

古田さんがおっしゃったことが委員会やるべきことだなと思っている中でそうじゃない話をするが、僕も公園管理者なので、どっちかというと、小山さんの答弁の方の気持ちになって、いつもやってしまうところがありっていうところ。盛りだくさんあるじゃないかってい

うことに対して小山さんがさっき答弁されていて、まあとりあえず全部並べてしまわないと委員会通すのに、あのなかなか難しい判断とか、後から後出しだとやるのもあれ、なんで全部並べるようになっていうことも 1 つだし、事務局は現場でやる我々ともすごく丁寧に調整してくださっていて、それは続けていただければこちらももちろんえっと配慮しますということが1つです。それからさっき花の話で「空前の」っていうふうに表現してくださっていたけが、そこまで盛ってくださらないといいが、そうじゃなくても過去コロナの時を除くと、このイベントの時にはたくさん人が来るということは、実は実証済みで、うちの公園で最大に人が来たのが1年で80万人というのがあるが、それが2回前のこのイベントの時だったと思う。そんなことで言うと、5ページに駐車場の計画を立てられていて、今回うちの工事であるとか、それから一応予定では使えることにはなっているが、民間の方々に事業してもらうようなことを公募していて、それにあたるようなところも駐車場の対象になっているので、まあこの辺の調整が続くかなというところを聞いている。これはもう本当にすみません。実務レベルの話なので短くするが、駐車場で混むのが嫌なのか、道路が混むのが困るのか、両方なのかっていうのはなんかこれから実務的には詰めなきゃいけないのかなっていうことを感じていました。本当は古田先生がおっしゃったようなことを言いたかったが、実務家としてはすみません。

（中瀬先生）

景観園芸学校に務めていた頃、土日の混雑が1番怖かった。近所の人めちゃ怒られた。買い物行けない。

（三井委員）

大きなイベントを公園でやると、必ず。駐車場が溢れかえるというのもあった。

（中瀬先生）

今は学長終わりましたが気にする。はい、あと原口さん、堀口さんなんかありましたらお願いします。

（堀内委員）

私の方もあの観光というよりは暮らしの方と言うか、県民の方とか、町民の方に次継承していくっていう部分がどこかなっていうふうに見ていて、そこの気になる部分を全部先ほど古田さんが言ってくださったのでホッとしておるのですけども、花とかでもすごいやっぱり綺麗だし、目立つのでやっぱり目玉にはなるのですけども、まあそれを生かして、子どもたちがその花を調べるとかなんか、そういうようなところに繋げられないかなと思っていて。今の時代だと、そういうアプリで調べるものとかもあるので、見て綺麗ではなくて、その次もう1歩、通常ずっとその期間中、花はあるので、そこに子供たちがそれこそ次世代の繋ぐ人たちが何かできることがないというのをもう1つ足してほしいなと見ていた。

（中瀬先生）

今言われている話で、NHK教育テレビのイーテレビで月曜日の7時半か。野歩き散歩かな、面白い番組ある。ダイソーの100均のマクロレンズで、これにぽこっとかぶせて、そのマクロ

撮影をしながら、植物生態学者が道際に生えている植物のことを一生懸命説明するっていう、隠れたものすごく面白い番組がありますので、今言っておられる、まさにそれ。この間も花粉とか一生懸命やっていて、大人でも「わあ」って言っている。1回番組を観ていただいて、そういうのも取り入れられたら。

（小山部長）

大変多くの示唆に富むご指摘をいただいた。すべてにお答えはできないが、最後の、委員長も先ほどおっしゃったような、その地域それぞれに野にあるものっていうのを探索するといった事業については、実はここ書いてないが、今仕立てをしている。夢舞台のそのものを生き物であるとか、植物であるとか、そういったものの探索事業っていうのを1つイベント化しようということで、今検討している。景観園芸学校澤田先生のご協力のもとでやらせていただこうと思っている。かなりマニアックなものになるので、人気も出るかもしれないし、滑るかもしれないと思いながら仕立てをしている。それから駐車場の話。本当に駐車場いくらか作ってもやっぱり道路は相当の誘導をうまくしないと、混んでしまうのではないかなというのは、少し我々としても懸念を持っている。うまいオペレーションの作法を行いたいと考えていることと、ちょっと今言えないが、かなり大きな民間の空き地を臨時駐車場で確保するように調整をしていて、そこが確保できれば今カツカツで考えている淡路会場もうまくオペレーションができるんじゃないかなというふうに考えている。先ほどの地域探訪も含めて、うまく国際シンポジウムの話を期間中ずっと伸ばしていって、それがさらに地域の皆さん方でやっていただけるような事業になっていけるように、また、この生き物田んぼというのをうまく使えるようにというふうに流れを持って考えているところ。今、仕立て上げられないものがあるので、うまく流れていない。すみません。

（田中委員）

先ほど橋が混む渋滞が嫌なのか、それとも駐車場が無いのが嫌なのかと話があったが、ゴールデンウィークの連休で、多分淡路って橋渡るのに3時間ぐらいかかっていたと思う。なので、私は諦めて、淡路に行かないで違うところに行ったが、それは前の情報で出ていたので。3時間かかって橋を渡るだけ。渡ってさらに降りてからどっかに移動しようと思ったら、普通の週末に来た時にあのウエストコーストがもう全然混んでいてどうしようもなくて、それにプラスしてゴールデンウィークで3時間の橋の上で待つのかと思ったら、もう無理と思って行かなかったが、駐車場を増やしていただいて増やしましたよって言うと「じゃあ車で行っても大丈夫か」と思ってますます今度は車で来られる方が多いのではないかなと思って。お子さん連れとかの方たちは帰り子供が寝ちゃうから、どうしても小さいお子さんとかいると、車で行ってそのまま帰りたいと思われるのでどうかなっていうのと、あともうちょっと遠方から来る方は道分かり辛いっていうのもあるので、例えば明石とか舞子とかどっかあの辺で車を1回置いて、それで乗り換えて、そこまでまたお送りするとか、前に舞子でそれやろうとしたけれども、結構難しかった。バスの本数もまあ、当時限りがあったというのもあって、何かもうちょっとその橋の渋滞対策っていうのは、かなり頑張って駐車場の方やっていらっ

しゃるけれども、渋滞対策はもうちょっと何かあった方がいいのかなというふうには思った。

（小山部長）

これはパークアンドライトの話だが、需要予測も含めて行っていきたい。いろいろ検討していきたいというふうに考えている。あと面白いのは、やっぱりこの渋滞予測で今、田中委員は「車止めよう」と思ったっていう話なので、うちでどこまでできるかわからないが、NEXCOさんでしたら、いつもゴールデンウィークとか「この辺この時間帯込みますよ」ってやっている。ああいうのをうまくホームページとか、ホームページを見ない方もいらっしゃるので一般ニュースに載るような格好で載せられないのかなっていうのも含めて検討していきたい。

以上